

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	34	学校名	静岡県立静岡高等学校定時制	職員名	織田 敦
------	----	-----	---------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<p>生徒の実態を踏まえ、一人一人に応じたあたたかみのある教育活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が生徒個々の情報を把握することで、指導の足並みを揃える。 ・生徒との二者面談は100%、保護者との三者面談は90%以上実施する。 ・HPの更新を月2回以上実施する。 ・家庭で保護者と会話ができた生徒が増加する。 ・企業訪問を1回以上行い、情報共有と生徒理解に活用する。 ・社会性、対人関係能力が高まり、基礎学力が向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから職員間の生徒に関する情報交換は活発に行われた。 ・生徒との二者面談は実施率100%、三者面談も1学期終了時中心に98%実施した。 ・学校行事を中心に、学校HPを更新した。 ・振り返りアンケートで「家庭で家族(保護者)との会話が増えましたか？」という項目に、とても増えた・増えたと答えた生徒は53%であった。 ・就業先訪問率は52%であった。 ・通級指導は10人、始業前学習支援は10人以上、生徒の特性や学力など個に応じた指導を実践した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2カ月に1回、生徒情報交換会を実施した。 ・全員対象の三者面談を1学期終了時に実施した。生徒の特性や生き立ち、家庭背景を把握するうえで大変有益であった。 ・HPの閲覧率を向上したい。 ・PTA総会には17名、体育祭には36名の保護者と卒業生が参加した。学校に対する関心の高さが窺えた。 ・生徒理解や進路指導に繋がった。 ・通級担当と関係職員が連携し、生徒が学校に馴染める工夫や支援を行い、良い効果を得ている。
イ	<p>多様な学習活動を設定し、基礎的・基本的な学力の定着と活用できる能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことの楽しさを感じ、粘り強く努力する姿勢を身につける。授業がわかると回答する生徒が70%以上になる。 ・漢字テストについて、全員が1回以上合格する。 ・年度当初にくらべて、基礎学力が向上したと実感できる生徒が80%以上になる。 ・自らが課題を設定し、情報収集・探究・発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りアンケートで「授業はわかりやすく興味を持てる内容である」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は76%だった。 ・42%の生徒が1回以上合格することができた。 ・授業アンケートで「授業を受けることで、自分自身の進歩や成長を実感できている」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は、1学期は84%であった。 ・総合的な探究の時間において各自のテーマの課題 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業形態、ICT活用や教材・教具の研究に努めて、個々の学びにアジャストした授業を実践したい。 ・クラスや学校全体での意識高揚を図りたい。 ・授業内容についていけない生徒もいるので、より丁寧な対応を心掛けたい。 ・3学期の印高基礎の時間を利用して、「高校生のための学びの基礎

		<p>ことで、物事に対する視野を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲が向上し、主体的に授業に参加している生徒が80%以上になる。 授業に興味・関心を持ち取り組んでいる生徒が80%以上になる。 	<p>解決や調査を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートで「授業中、クラス全体が積極的に授業に参加している」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は87%であった。 授業アンケートで「授業でわからない事は先生や友人に聞いてわかるように努力している」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は76%であった。 	<p>診断」の認定ツールを利用した振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理的安全性の担保が主体的な取り組みを促進している。Google Classroom やロイロノートを活用すると生徒の反応は良好である。 教員の工夫（ICT活用、教材選択、目標設定など）が生徒の授業への興味関心を助長させている。
ウ	<p>授業や学校行事などの教育活動を通して、自己理解を深め、協調性を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じた適切な言葉遣いができ、コミュニケーションを通して、良好な人間関係を築くことができる。 スマホ等の正しい使用法を理解し、主権者としての意識を高める。 場に応じた態度やマナーなど協調性を育み、学校生活、社会生活で活用できる。 振り返りアンケートで、生徒会行事等を通じて、自己肯定感が高まったと回答する生徒の割合が70%以上になる。 自己理解を深め、生徒が互いの意見や行動を認め合い、責任をもった行動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭や生徒会行事で他学年との交流を図ることで、学年を越えた人間関係を築くことができた。 情報モラル講座と主権者教育講座、消費者教育講座を実施したことで、主権者としての意識が高まった。 校外行事を通じて、TPOをわきまえた振舞いを身につけた。 振り返りアンケートで「生徒会行事等を通じて、自己肯定感が高まった」という項目に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は53%であった。 全生徒を対象にSST講座を3回実施し、自己理解を深めるとともに、他者との関わり方、折り合いの付け方を学んだ。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> TPOに応じた言葉遣いの習得は、協働的な学びの場面においても促進された。 成人に求められる規範意識と危機回避能力について考える契機となった。 校外行事と学年横断の活動は、社会のルールやマナーを学習する絶好の機会である。 学校行事の企画・運営の過程に、全生徒参加型の仕組みが設定されている。 事前に相談をした上でテーマを設定したことで、生徒が直面している課題に直結した講座を実施することができている。

<p>エ</p>	<p>社会的自立 に向け、望ましい職業観・ 勤労観を育成し、進路実 現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年次ごとの段階的なキャリア教育により、職業観・勤労観を養う。 ・自己を振り返り、見通しを立てることで成長を実感し、進路目標が明確になる。 ・進路意識の向上とともに、希望進路の実現率100%を達成する。 ・進路実現に向けた意識を高め、行動に繋げることのできる生徒数が増加する。 ・ハローワーク等、外部機関との連携を行い、計画的に指導する。 ・アルバイトによる就労率80%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路のしおりを活用してキャリア教育を実施できた。 ・1～3年生は夏休みの課題として、オープンキャンパスやインターシップ、ボランティアへの参加、職業調べなど自身の進路に向けた活動をした。 ・4年生の4人中4人の進路が決定している。 ・進路学習日(企業 上級学校 社会保険労務士)やインターシップ、ライフプランセミナーにより進路意識が高まった。 ・ハローワーク、YourLife、東海道シグマなどと連携して指導に当たった。 ・アルバイト等の就労率51%以上であった。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業までを見据えた計画的なキャリア教育を目指し、進路担当を中心に実践し、検証や改善を重ねている。 ・2回の進路学習日は大変有益であった。進路目標の設定においては、生徒の「やりたい」を大切にしたい。また、オープンキャンパスやインターンシップへの参加は効果的なので推進していきたい。 ・進路課の手厚いサポートがあり、夏休み前から進路実現へ動き出すことができた。 ・高卒求人倍率や大学全入時代など、少子化に伴う社会の変化に対応した指導をしていきたい。 ・学校(会社)見学や自己PR文(履歴書)の作成、模擬面接などを通じて試験対策をすることができた。 ・就労を通じて勤労観や社会性を身につけることができた。
<p>オ</p>	<p>生徒の心身の健康や安全に留意した学習環境の充実に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び教員の交通事故0件を達成する。 ・校内外における地震、火災等の際、避難方法を生徒・職員が完全に理解する。 ・薬物や飲酒、喫煙など身体的影響に関する理解率が向上する。 ・振り返りアンケートで、「相談しやすい」と回答する生徒の割合が80%以上になる。 ・いじめや体罰を許さない環境にすることで、いじめの早期発見に努め、いじめによる生徒指導件数0件を達成する。 ・心身の健康を保持させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の交通事故2件、教員の交通事故0件であった。 ・年間2回(4月と9月)に初期避難訓練実施した。 ・静岡県警察と薬剤師による薬学講座を1学期末に実施した。 ・アンケートで「学校や先生に話しやすい・相談しやすい雰囲気を感じますか?」という質問に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は83%であった。 ・いじめの件数は0件であった。上級生になるにつれて心理的安全性が高まっている。 ・全校で1日当たりの欠席 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の実施により、安全意識が高まった。 ・南海トラフ地震臨時情報や避難所運営、生徒の引渡しなどを想定した訓練も取り入れていきたい。 ・国内において、16歳からの大麻使用が急増傾向にある。薬物等に依存せずに人に依存できる信頼関係の構築も有効な手立てと考える。 ・様々な生い立ちや背景を持つ生徒に対して、受け入れて寄り添う支援に努めてきた教員の取り組みが数字で表れた。 ・命や健康の大切さを理解し、利他性、自己肯定感を育てていきたい。 ・受診勧告が受診に結び付きにく

様式第3号

		<p>ことで欠席、遅刻日数が減少する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や偏り、成育歴などの多様性に応じた指導・支援の充実により、早期対応・早期解決を図る。 	<p>は3.7人、遅刻は2.4人である(1-2学期)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースクール、SSW、法務支援センター、児童相談所、しずおか共育ネット、医療機関、出身中学校などと連携して充実した支援ができた。 		<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級指導を希望する生徒や、必要性を感じる生徒が増えている。 ・多様性に応じた支援には、外部機関との連携が不可欠である。
カ	<p>「働き方改革」とコンプライアンスの徹底を推進し、働きやすい環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の効果を確認し、見直し、改善を行う。 ・働きやすく、意欲的に働ける環境であると職員が感じている。 ・業務に支障がない場合は、積極的に休暇を取得する。 <p>また、研修等への参加とコンプライアンスの徹底を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2学期中間テストを3日間実施から2日間実施に変更した。 ・職員室の座席を正副担任で横並びにすることで、情報交換が容易となった。 ・年休取得率は個人差があるものの、取得に対する同僚の理解は得やすい。 <p>また、年度当初に設定した自主研修に参加した。教職員による不祥事は0である。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事で生徒・職員アンケートを行い、改善を重ねてより良い行事を目指していく。 ・業務の平準化と職員の強みを活かす人材配置を図る。 ・職員の間関係や家庭環境・健康状態等に配慮し、休暇取得の促進や労働時間の管理を行い、誰にとっても働きやすい職場を目指す。